

移り変わる風景:
公的資金フローのトレンドと
エイド・アーキテクチャー

西尾 昭彦
世界銀行副総裁(開発金融総局担当)

2022年6月22日

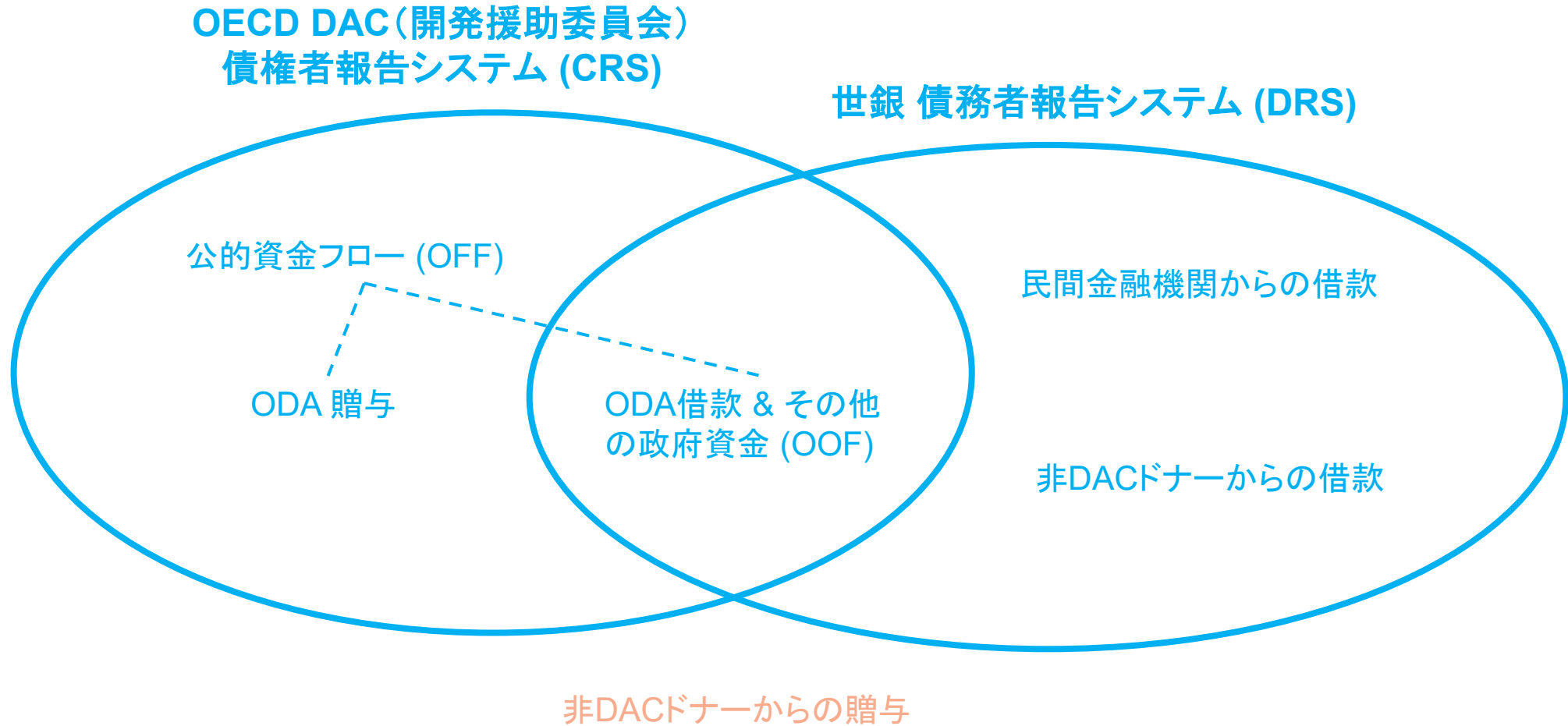


背景と目的

- 公的資金フロー(OFF)とグローバル・エイド・アーキテクチャーに関する最近のトレンドを分析
- 2007・2011に発表された世銀レポートのアップデート
- 途上国へのすべての公的・民間資金の流れをカバー
- 国際社会において採り上げられるべき、エイド・アーキテクチャーの問題点を提起



方法



注:

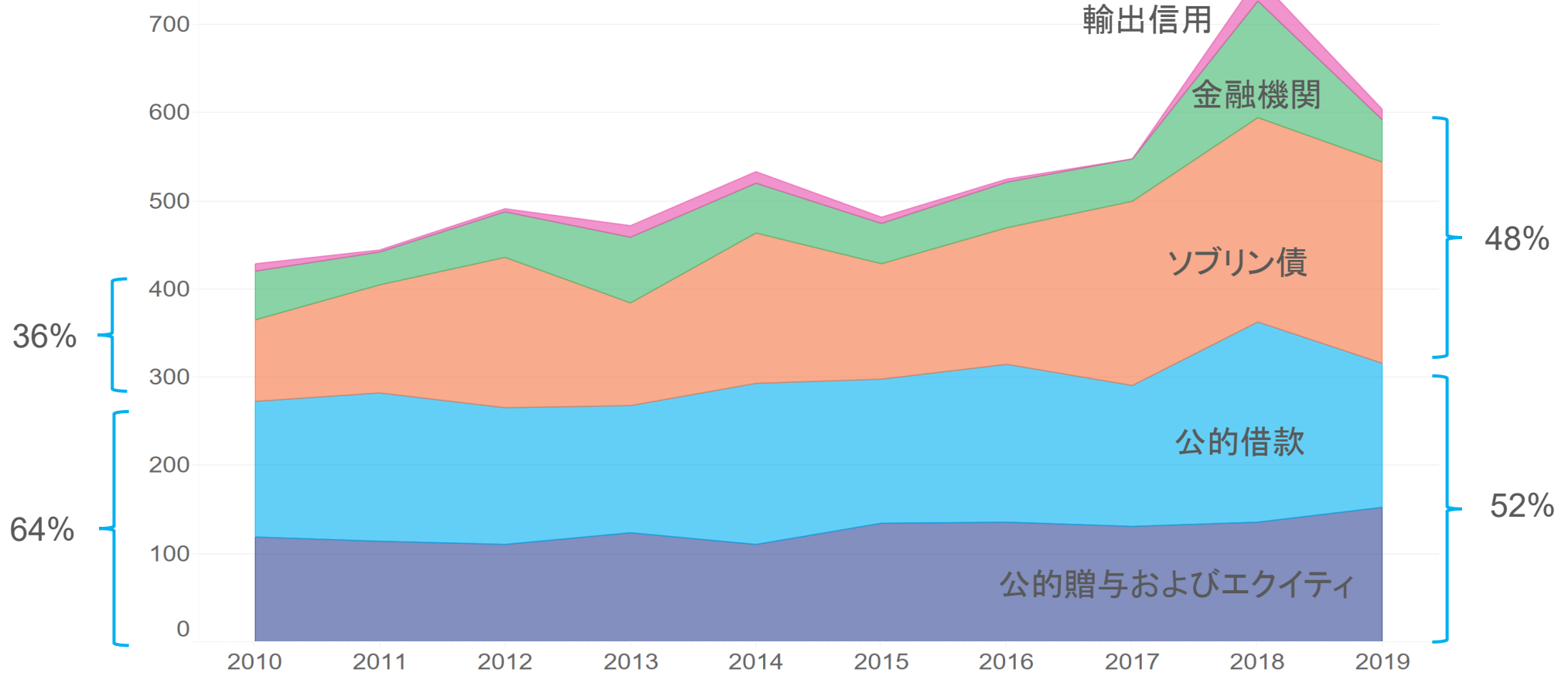
- カバーされているデータ
- カバーされていないデータ



1

途上国への資金フローは主に民間資金の拡大により、過去10年において堅調に増加

途上国の公的セクターの外部資金調達の推移
(コミットメントベース、単位10億ドル、2019年価格)



Type of Flow

- Export and Support Credits
- Financial Institutions
- Sovereign Bonds

- Official loans
- Official grants and equity

出典: CRSおよびDRS

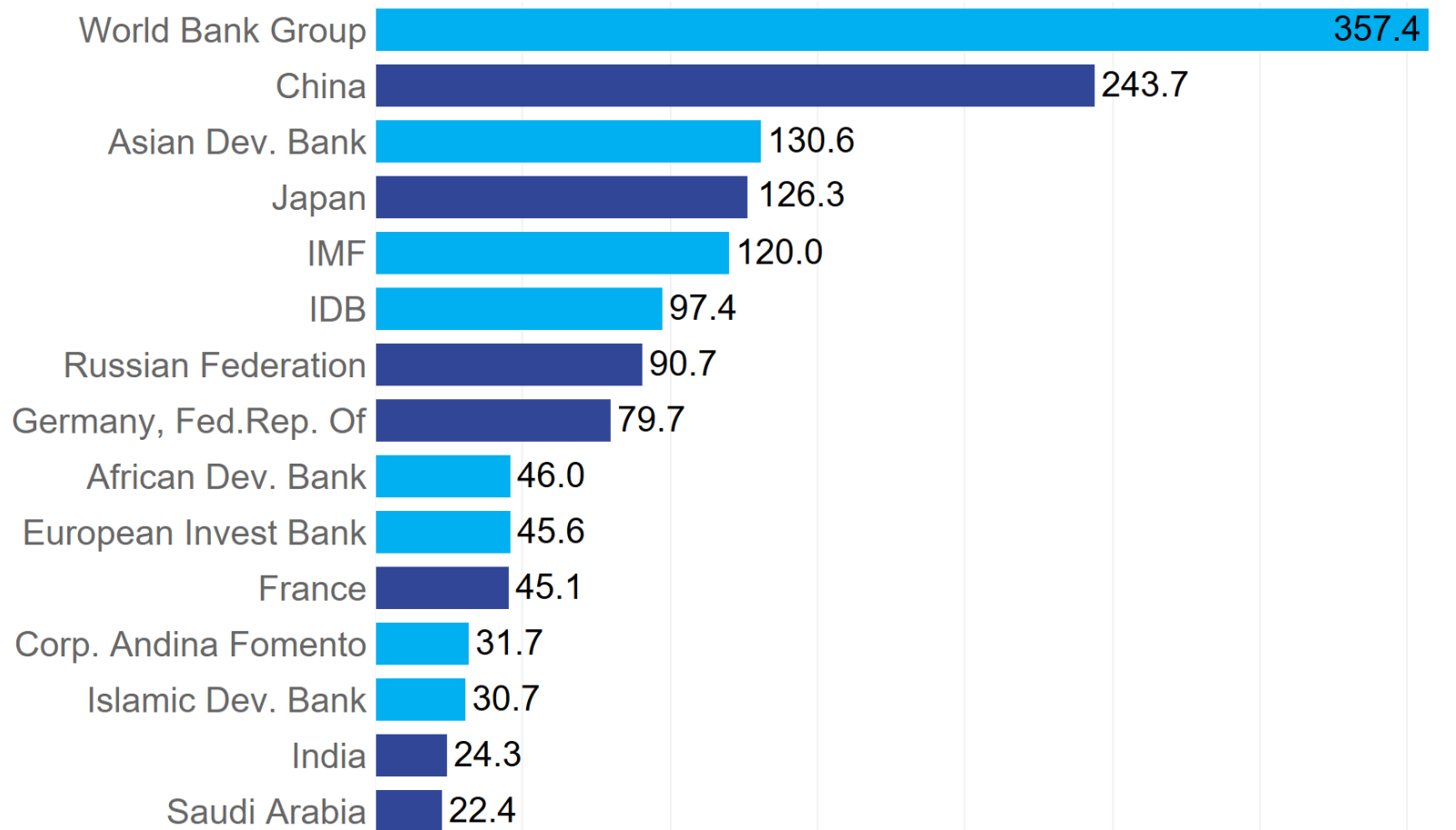


2

途上国への公的借款においては、BRICs諸国からの貸付額が増大

途上国への公的借款のコミットメント

(2010-2019年累積額、単位10億ドル、2019年価格、上位15の公的貸付国・機関)



Creditor Type

■ BILATERAL LOANS

二国間借款

■ MULTILATERAL LOANS

国際機関による借款

BRICs諸国は:

- 過去10年間の途上国への借款額の22%を占める
- アフリカへの借款額の28%を占める
- 非DACドナーによる贈与に関する包括的なデータは入手困難



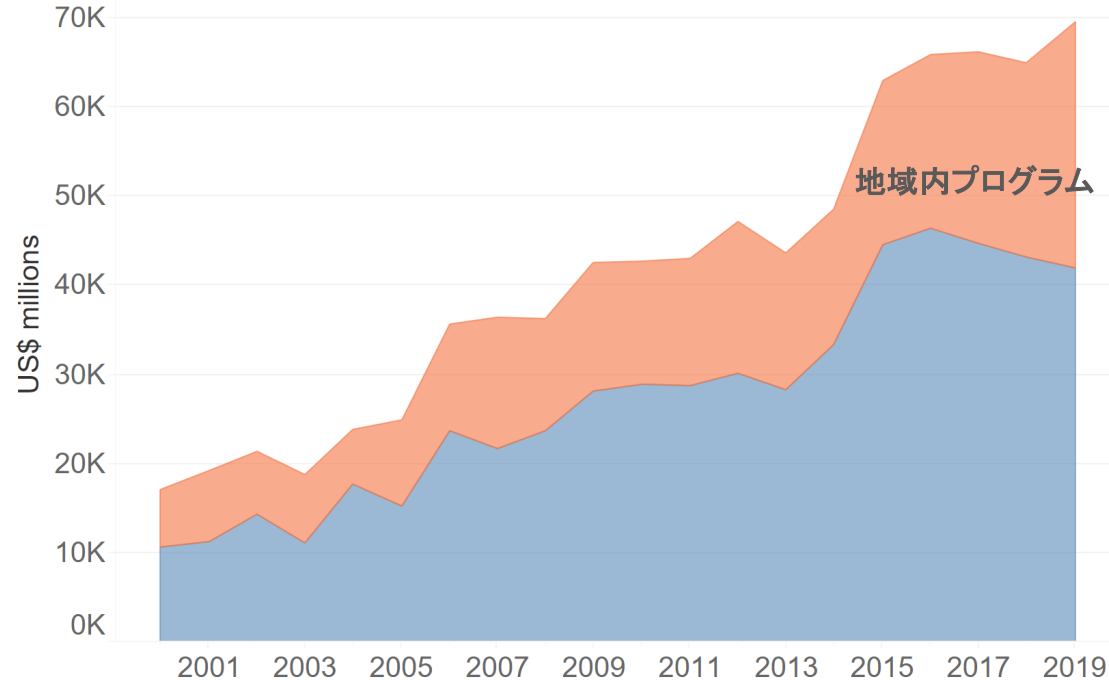
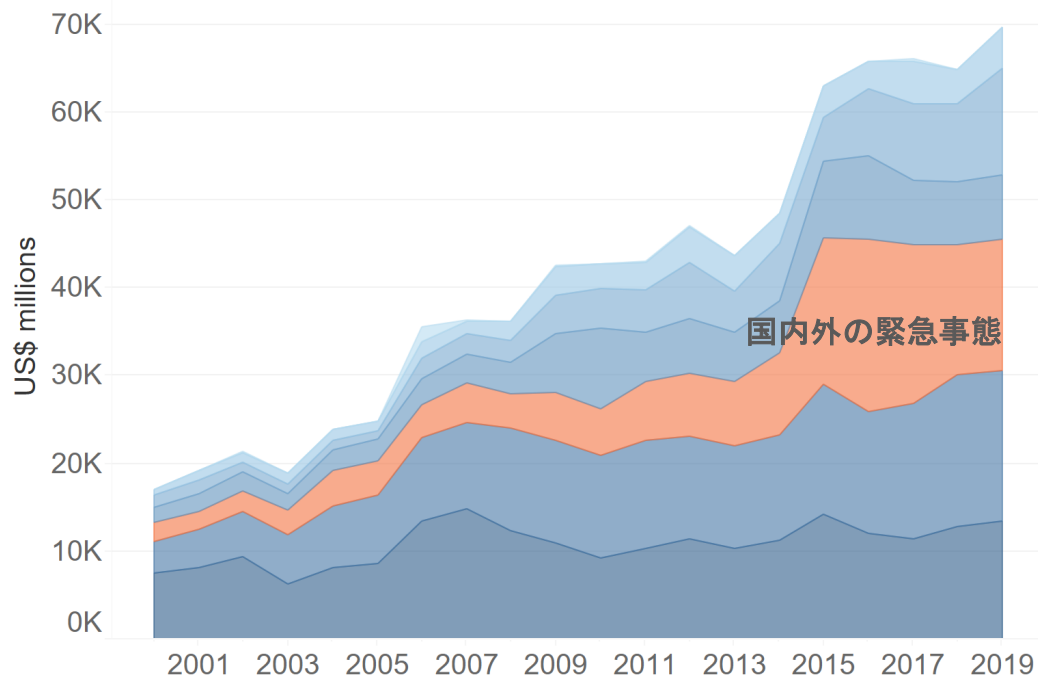
3

公的資金フロー（OFF）のうち援助受入国を特定しないものは2000年以降で4倍近く拡大し、OFF全体額の1/5超を占めるまでに至る

援助受入国を指定しない公的資金フロー (コミットメントベース、単位10億ドル、2019年価格)

セクター別 Country Unallocated OFF by Sector

タイプ別 Country Unallocated OFF by Type



- Sector
- Debt Relief
 - Production
 - Infrastructure
 - Budget Support and Cross-Cutting
 - Emergencies at Home and Abroad
 - Social Sectors
 - Other

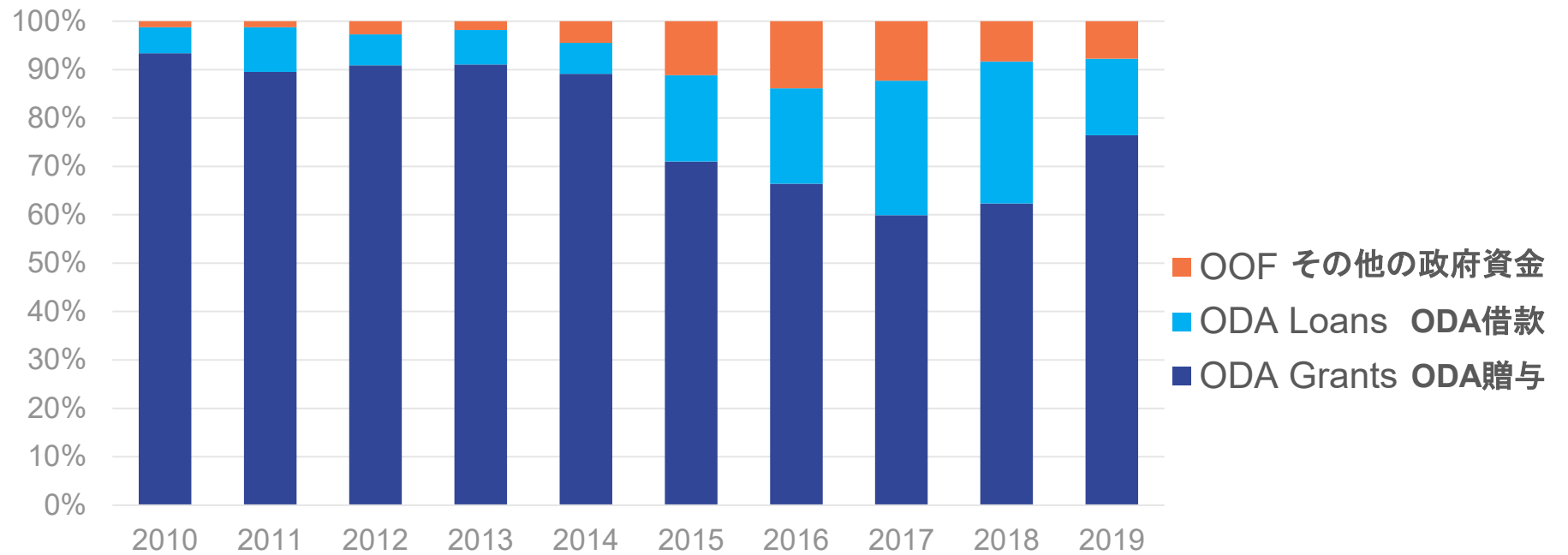
- Type of Allocation
- Regional Programs
 - Other Programs Not Allocated By Country



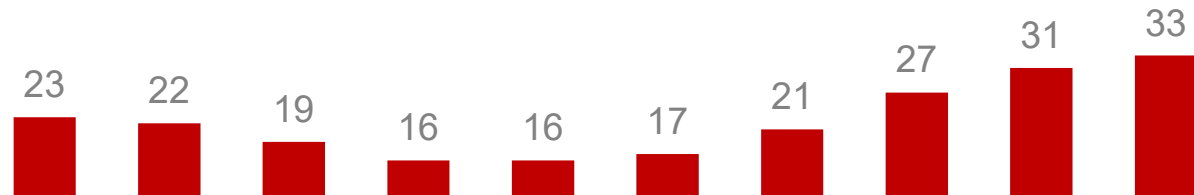
4

債務返済が困難な国への公的資金フローの譲許性は2018年まで低落傾向

債務返済に支障をきたしている
（「赤信号」）、またはその恐れ
が高いIDA諸国への公的資金
フローの内訳



債務返済に支障をきたしている、
またはその恐れが高い国の数

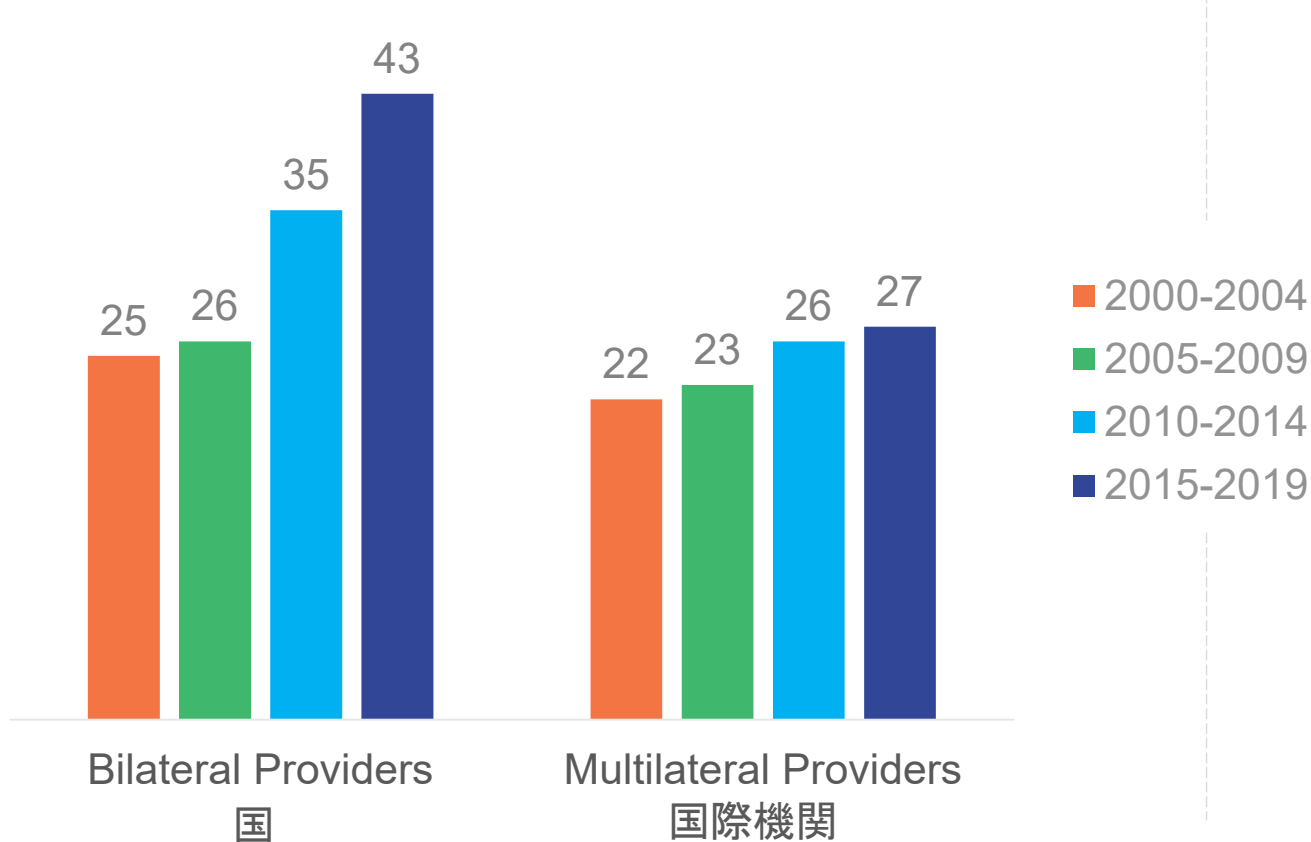




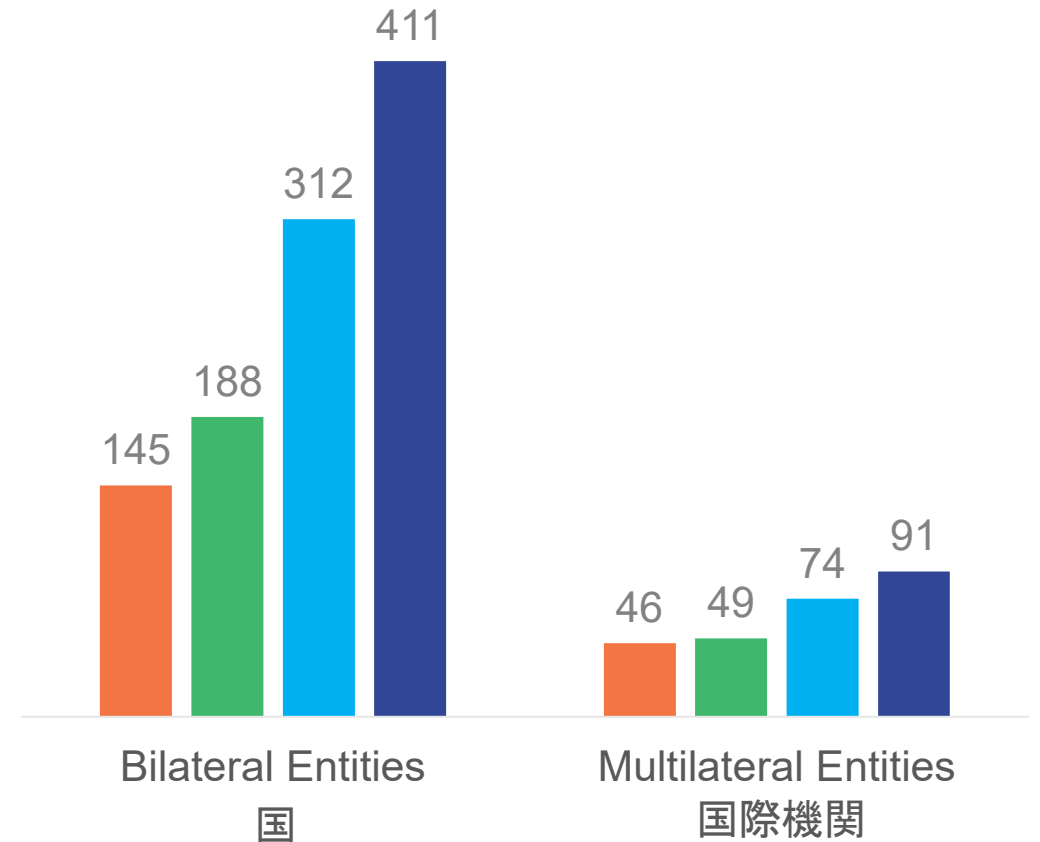
5

2000年以降、途上国に公的資金を供与するドナー国およびマルチ機関の数は緩やかに増加している一方、バイの事業者の数は2.5倍以上に急増

公的資金を供与する国および国際機関の数
(OECD DACへの報告ベース)



公的資金を供与する国および国際機関に属する事業者の数(OECD DACへの報告ベース)

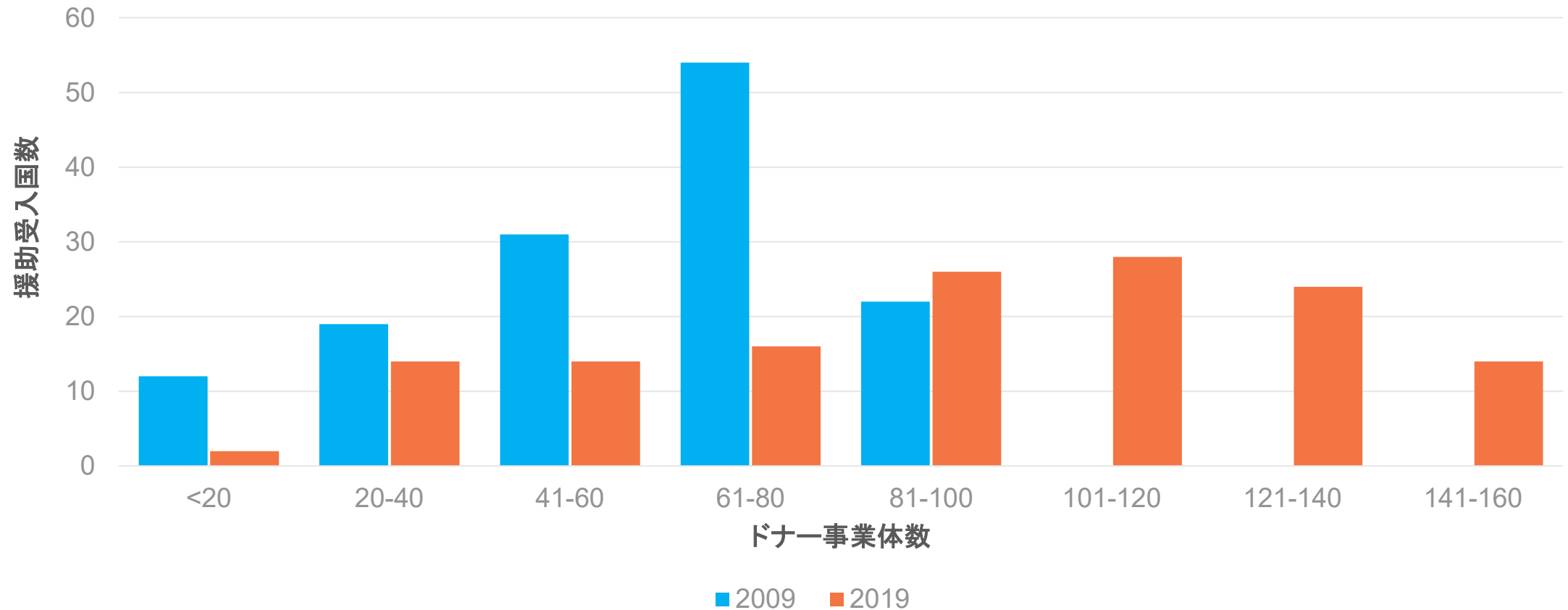




6

60以上のドナー事業体からの援助を受け入れる国の割合が過去10年間で増加していることは、援助受入国のレベルにおけるドナー数の増加を示唆

援助受入国におけるドナー事業体の増加 (2009年と2019年の比較)

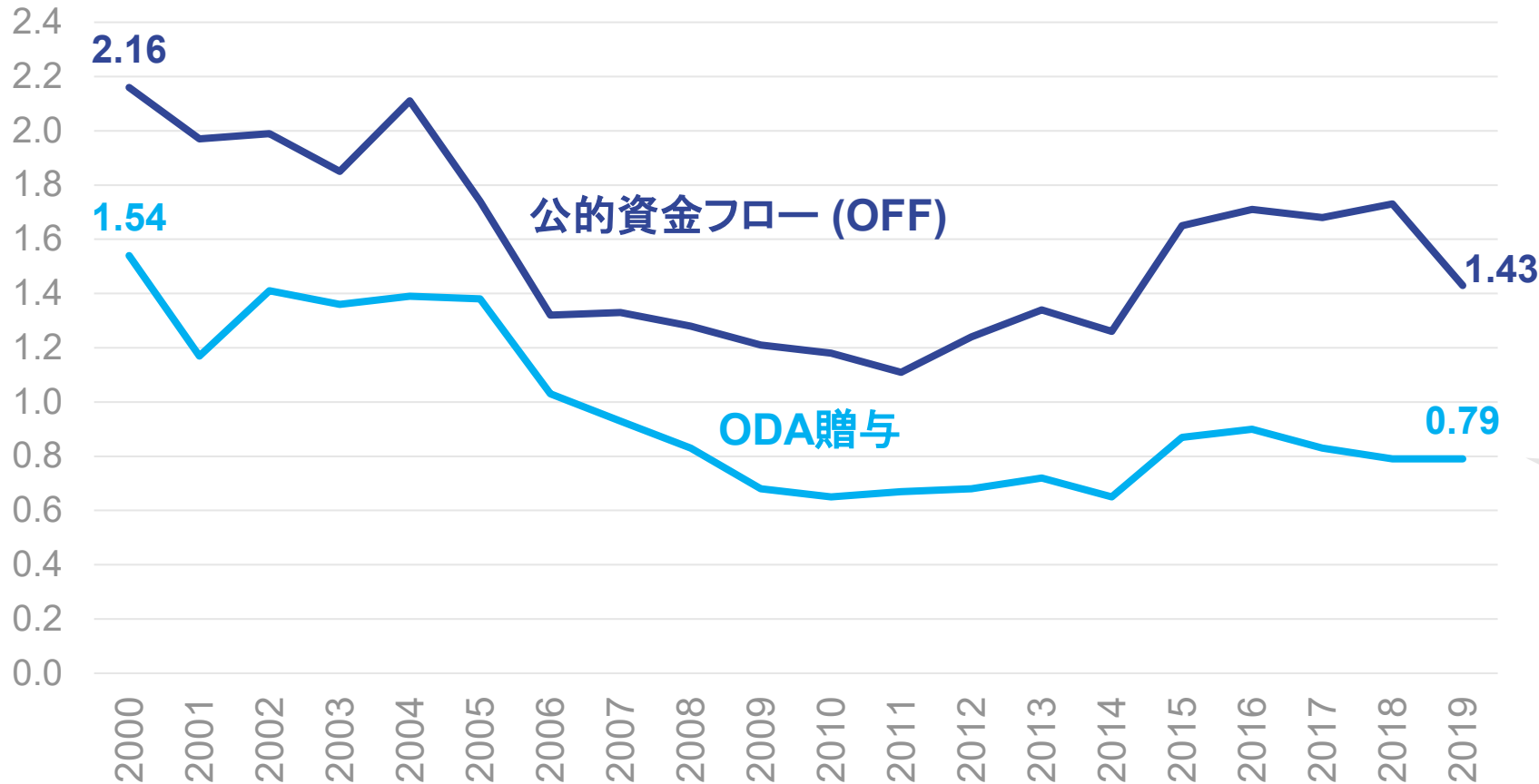




7

開発援助活動は細分化の傾向が続き、プロジェクト一件あたりに配分された公的資金フロー額(OFF)と贈与額は過去20年間でそれぞれ1/3、1/2減少

公的トランザクション一件あたりの平均公的資金フロー額
(単位100万ドル、2019年価格)



2019年の贈与件数が公的資金トランザクション全体件数の86%を占める



8 途上国への資金援助の手段のうち、プールドファンディングは援助の細分化による負の影響を減らす効果があるが、実際使われている割合は低い

資金調達手段 / 援助タイプ別公的資金フロー(2012-19年)

資金調達手段 / 援助タイプ	幅 %	平均 %	2012-19年平均公的資金フロー額 (単位10億ドル)
予算支援	6-11%	9%	24.3
バスケットファンディング/プールドファンド	0-1%	1%	1.8
コア支援-非政府	1-2%	1%	3.4
特定目的支援	5-7%	6%	16.9
Sub-Total	12-19%	17%	46.5
プロジェクトタイプ介入	64-70%	68%	191.3
専門・技術支援	2-3%	3%	7.5
Sub Total	66-73%	71%	198.9
債務救済、事務コスト、学生コスト、その他ドナー内出費など	9-18%	12%	35.0
Total		100%	280.5



結論

- これまでに示したトレンドは過去10年のものであるものの、その後も続いている可能性がある
- 複雑化したエイド・アーキテクチャーは、コロナ・ウクライナ紛争・聞く変動などによる多重危機に直面し、より効率的な援助を求める途上国の開発努力を難しくする恐れがある
- これらのトレンドを反転させるために、援助する側は一丸となって行動することが早急に求められる
- このような国際協調を従来よりもはるかに包摂的に行い、大きな貸し手となった新興国を含めるべき
- 世界銀行は変化するエイド・アーキテクチャーがどう援助受入国に影響しているか調べるため国レベルでのケーススタディを実施するとともに、難民支援など国レベルを超えた援助が急増している現象を分析する予定である
- このような状況下、世界銀行としては国レベルでのプラットフォーム(共通基盤)となるようなツール(例えばIDA)を提供し、援助全体としての効率化に貢献することができる



ご清聴ありがとうございました